

修学旅行新聞

発行所 財団法人協会
全国修学旅行研究田代区
〒101 東京都千代田区一
千神田錦町1-17-1 (NK第
ビル) 電話 03 (5259) 0631
振替 00160-7-36337

平成6年度役員と 事業計画を決定

関東・東海・近畿三地区修旅連

会長に横嶋孝夫氏

関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会(安藤和夫会長・前豊田市立豊南中学校校長)は、平成6年度総会を七月十三、十四日の両日、神奈川県箱根町の箱根高原ホテルで開催し、本年度事業計画の決定、役員選出等を行った。



横嶋新会長

総会は、菊池正利副会長(前水戸市立第三中学校校長)の開会の辞で始まり、安藤会長、山本種一顧問(全修

協理部長)のあいさつの後、前田寛参与(全修協理事・総局長)が当委員会の沿革の概要を説明した。続いて、安藤会長が議長となつて議事に入り、平成5年度各地区修学旅行委員会の事業報告、本委員会の会務報告が行われた。役員

改選は、各地区並びに全修協から推薦された平成6年度役員候補者名簿により、横嶋孝夫会長(宇都宮市立陽南中学校校長)以下別掲の新役員が全員一致で決定し



箱根で開催の本年度総会

- われらの信条
- ★われわれは教育を熱愛し、友愛と信義を基盤とする同志的組織のもとに団結する。
 - ★われわれは全修協創設の精神にのっとり公益法人として、児童生徒の幸福のために挺身する。
 - ★われわれは修学旅行の改善向上に邁進し、我が国の教育振興に寄与する。

- 査実施(三地区加盟校10%抽出調査)
- ⑤平成6年度修学旅行実施状況調査実施(全加盟校)
 - ⑥平成7年度修学旅行費等の国庫補助金増額について文部省、大蔵省への陳情などを決定、山口光則副会長(京都府大山崎中学校校長)の閉会の辞で終了した。

- 第9回全修協修学旅行セミナー 9月27日(京都)で主催 財団法人全国修学旅行研究協会 テーマ「修学旅行で学ぶ」
- 後援 文部省ほか
協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
- 日時 9月27日(金)13時
会場 京都市アバンティ
ホール(京都駅前口前) 6500
- 講演 文部省初等教科調査官 渡部邦雄氏
記念講演 武庫川女子大学 教授 森谷久氏
学芸員 藤本久氏
- 連絡先 財全修協大阪事務局 06・202・6500

- 安藤前会長、横嶋新会長のあいさつ後、議長を横嶋会長に交代して平成6年度事業計画を審議した。
- ①各地区修学旅行輸送計画の無事故完遂と、楽しく思い出深い修学旅行の実施
 - ②安全で合理的な平成6年度修学旅行輸送計画完成
 - ③第九回全修協修学旅行セミナー(九月二十七日、京都市)への協賛
 - ④第十回全国修学旅行研究大会(十月二十八日、宇都宮市)への協力
 - ⑤中学校修学旅行行動調査

- 平成6年度役員・委員名(各中学校長・敬称略)
- 会長 横嶋孝夫(栃木・陽南)
副会長 吉田俊彦(愛知・師勝) 山口光則(京都・大山崎)
重興修学旅行研究会(近畿) 吉田勝郎(滋賀・彦根西) 平岡豊(京都・高田) 細田経世(大阪・枚岡) 中村実男(兵庫・浜甲子園) 本田克己(奈良・桜井西)

- 特別委員 山本陽造(和歌山・紀之川) 黒澤文雄(前兵) 朝見 安藤和夫(前愛知) 豊南 菊池正利(前茨城) 水戸三 小坂井 瀬木一則(三重) 四日市中野野村定男(三重) 顧問 山本種一(全修協) 参与 前田寛(同) 委員 大友恭(同・大阪) 北條直樹(同・大阪) 兼子勉(同・名古屋) 鈴木實(同・本部) 事務局 井井孝孝(同・本部) 事務局長 井井孝孝(同・本部)



かえりの「ひかり」は「のぞみ」型車両で一同大満足

(7月8日)千葉県柏市立田中学校 2面に作文

主張 連合体輸送に参加しよう

広報委員 北條 直樹

近畿・東海の中学校では、平成6年度修学旅行の連合体輸送申込みが間もなく始まる。昨年の経過もあり、予告はされていたが、例年より一か月ほど早くなったため、いざ申込みとなる、一部に戸惑いがある事も事実である。その大方の理由は、二学期は体育祭・文化祭を中心とする学校行事が集中する時期であり、一年生としては、まだ修学旅行の目的地決定にまで至っていないというところであろう。

しかし、修学旅行委員会の校長先生方が恐れているように、それが理由となつて、安易に連合体輸送への参加を取りやめ、学校独自の計画に変更することは、極力避けなければならぬ。むしろ、この際、原点に戻って、改めて連合体輸送の意義を問い直し、それ

によって逆に増加させる契機としたいものである。連合体輸送は、修学旅行が児童生徒の人間形成に寄与する重要な教育活動であることにかんがみ、全修協が創立以来、国鉄や近鉄、関西汽船等に働きかけて獲得した成果である。近畿地区中学校だけを例にとりても、昭和三十年代から三十余年の間に、延べ一萬三千校余り、約三百三十四万四千名の生徒がこれを利用してきているのである。

修学旅行において第一に必要なのは安全性の確保である。昭和三十年前後に起った相模湖や紫雲丸の死亡事故は、あってはならないものであった。その後、連合体輸送の確立によって安全な輸送が約束され、やがて新幹線に

も引き継がれ、安全かつ快適な修学旅行が実施されてきたことは周知のとおりである。小学校においても、近畿・東海では、近鉄の協力により、伊勢志摩方面へ行く専用電車「あおぞら号」が造られた。一萬六千校余り、約二百六十八万二千名の児童を運び、近年「あおぞら号」に引き続き、子供たちの夢を安全に運んでいるのである。

連合体輸送の第一の利点は、経済性の適正化である。連合体輸送に限り、JRは、国鉄時代から特急料金を五割引に、近鉄あおぞら号は子供運賃の四割引(特急料金不要)に優遇している。中学生約五千円、小学生約二千円の割引は、豊かになった今日といえ、保護者負担軽減に大きな役割を果たしている。また、年度内に運賃値上げがあつても適用しないことなども、大きな利点であらう。

第三に、連合体輸送のコースは、自然・文化に親しむという修学旅行のねらいに合致したものが組まれている。各学校では、それぞれに合わせたコースを自由に選ぶことができる。修学旅行の本来の目的である教育性の充実・高揚から考えても、適切なものと言えよう。

かいつこの欄で述べたように、修学旅行は学校行事であつて、学年行事ではない。学校の教育目標や、置かれている生活環境に基づき、入学以来、三年間の全体を見通して、修学旅行並びに校外学習のプランは立てられるべきである。組織的には、学校長を中心に、各学年代表、教務、研究主任等校外学習委員会を構成し、卒業時の社会見学等に至るまでの全体計画が、学校として立てられていたら、申込みの時期が少々早まっても戸惑いとはならないであろう。

修学旅行連合体輸送申込みの時期にあたり、連合体輸送の意義を改めて考え、参加校の増大を図ることに、各学校では、修学旅行を中心とする校外学習の在り方を問い直すよい機会となれば幸いである。

風紋

酷暑。去年の陰性な冷夏とは対照的に、今年の夏は実に陽性である。空梅雨は早く明け、強烈な日の光と、所によっては大雨が天から降り注ぐ。七月は各地で高温少雨の記録を更新した。特に瀬戸内から北九州の湯水は甚だしい。早明浦(さめうら)ダムの名も一躍有名になり、見学者が増えているという。東京では、オリンピック開催直前の昭和三十九年夏、連日の断水が苦しんだ。その後は埼玉県行田市に利根大堰が完成し、武蔵水陸経路で利根川の水が多摩川の水に加えられる。時間給水は免れている。夏休みに入ってから、東京へは中四国、九州の高校生が修学旅行でやって来る。猛暑の都内を就職活動の大学生たちが混じって自主活動しているが、断水がなくて幸いだ。東京は群馬県、大阪は滋賀県、高松は高知県と、水源はるかかなたで、自給自足には程遠い。水の消費量の多い大都会では、もっと工業用水、中水道に目を向ける必要がある。東京も墨田区では天水の確保に積極的で、両国国技館や江戸東京博物館には巨大な水槽が設けられているが、大雷雨の恵みの雨も活用されるのはごく一部で、街にあふれ、電車を止め、大半は海へ流れ去る。八月一日は「水の日」。「水を大切に」のキャンペーンはこれから一層強化しなければならぬ。月遅れお盆、高校野球と人出も熱気もこの時期が最高潮に達する。節水の徹底と、水源地に慈雨を!!

信頼される旅づくり

心にあざやかな思い出を

ツーリストの修学旅行。

近畿日本ツーリスト

運輸大臣登録一級旅行業第20号 (社) 日本旅行業協会会員

楽しい修学旅行を、より安心、より快適に

「学校旅行総合保険」をおすすめします。

東京海上火災保険株式会社

本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-3212-6211(代表)

